

2024年度版

# 岐阜県自然共生工法研究会

Gifu study group for nature symbiotic method of construction



水量が豊富だと全断面魚道として、少ないと中央と岸近くの魚道が機能する、自然石を利用した落差工の写真は、生き生きとした水流が樹林や堤防の草色、空の青色を背景に、落差工が河床安定や生息場の確保、周囲景観との調和に役立っていることを表しています。

## 「根尾川の夏景色」

根尾川(岐阜県揖斐郡大野町下座倉地内)



## 「流れ様々」

長良川(岐阜県郡上市白鳥町越佐地内)

出水による損傷の修復に工夫を凝らし、山間の棚田を思わせる姿に至ったとうかがわれる大規模の落差工の写真です。逆光を使って、多様な流れを1枚にまとめていて、取水や河床安定に加え、魚道の機能もよく表現されています。

写真は、2023年度「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテストにおいて、最優秀賞に輝いた2作品です。

## 「ごあいさつ」 「清流の国ぎふ」づくりに資する自然共生工法の発展とその活動の充実に向けて



会長 藤田 裕一郎  
(岐阜大学・名誉教授)

岐阜県自然共生工法研究会は、岐阜県の優れた生物相を支える水と緑に恵まれた県土の自然を保全・復元し、多様な生態系とその恩恵を次世代に引き継いでいくことを目的に、21世紀最初の年2001(平成13)年12月に設立されました。設立当初から、岐阜県が進める「自然の水辺復活プロジェクト」に「産・学・民・官の協働」で取り組み、その後徐々に対象を水辺から周辺にも広げながら、令和6年5月31日現在、法人168団体、個人1,304名の会員が将来を見据えて「自然との共生」に関わる活動を続けてきています。

自然の水辺復活プロジェクトの概要は次欄からのおりで、本研究会は、多自然型川づくりに始まる全国的な河川環境の保全再生事業に先駆けて、岐阜県が「自然共生川づくり」の実践研究に取り組んできた歴史を引き継ぎ、このパンフレットに紹介しているような様々な活動を将来に向けて続けていて、県が推進する「清流の国ぎふ」づくりに貢献しています。

本年は、元日に発生しました能登半島北端を震源とする大地震に今も多くの方が苦しんでおられ、関連死に見舞われる

方は増え続けています。また、昨年夏には国連の事務総長が「地球沸騰化の時代が到来した」と述べ、わが国でも、6月末 7月中旬に全国に被害を及ぼした豪雨、本年の梅雨前の高湿など、気象災害の激甚化・頻発化が実感されています。持続的な社会の発展には、このような天変地異、「荒ぶる自然」への備えが不可欠で、経済性や施工性に優れた防災・減災の手法を高め、実際に施工していかなければなりません。

同時に、多様性に富んだ生態系を有する自然は、ときに新型コロナ禍のような大災厄をもたらしますが、節度を持って接すれば、恵み豊かな優しい自然として、人類の生存に計り知れない恩恵を与え続けてくれます。この自然の機能を保全、増進、再生する技術を防災・減災の手法に組み込んでいく工夫が「自然共生工法」そのものであると考えています。

安全で豊かな人間社会を目指したSDGs、その主要基盤の一つである良好な自然環境を支える30by30、Nature Positiveなどの近年の取組、また、水害の激甚化・頻発化に備えた「流域治水」には自然共生工法の視点は不可欠で、本研究会の担うべき役割も大きいと考え、日々努力を重ねています。

県内外の皆様におかれましても、本研究会にご関心をお持ち下さり、できれば会員として、活動にご協力ご支援を賜りますと幸甚に存じます。何とぞよろしくお願い申し上げます。

## 岐阜県自然共生工法研究会設立の趣旨

自然環境に対する関心がますます高まっている中、岐阜県においても産業界、学界、地域住民、行政の立場から「自然との共生」をテーマに様々な取組が進められてきています。

しかしながら、かつては相互の情報交換が不足していたり、十分な連携が取りにくい等で、取組の効果がなかなか得られませんでした。

このような状況を改善するためには、産学民官が連携した同じ場で問題意識を共有し、現場で実践していける仕組みづくりが必要であるとの認識から、既存の枠にとられない柔軟な組織の創設が模索されました。

岐阜県自然共生工法研究会は、この趣旨に則って、水と緑があふれ、多種多様な生物を育む自然豊かな岐阜県土の保全・復元を図り、次の世代にすばらしい県土を引き継いでいくために、産学民官の協働による自然と共生した県土づくりを目指して設立されました。その後25年間、自然共生工法の充実・展開を軸に活動を続けています。



## 「清流の国ぎふ」づくり

岐阜県内の豊かな森林から生み出される水は、全国有数の美しさを誇る川から海に通ずる清流となり、豊かな海を育むとともに、岐阜県民に様々な恩恵をもたらしてくれます。県では、この清流を「守る」「活かす」「伝える」を柱に掲げ、清流を後世に残していけるような「清流の国ぎふ」づくりを推進しています。

“3つの柱”と“10の施策”(研究会に関係する部分)

### ①清流を守る

- ①生物が棲めるきれいな水を守る
- ②自然と共生した川をつくる
- ③「水みち」の連続性を確保する
- ④水を蓄え、土壌が流出しにくい山をつくる

### ②清流を活かす

- ⑤森・川から生まれる環境価値を活かす
- ⑥森・川が育む豊かな自然環境を活かす
- ⑦森・川から生まれる県産品を活かす

### ③清流を伝える

- ⑧清流を学び、次世代へ伝える
- ⑨県民協働による流域活動に参加する
- ⑩岐阜の清流を内外にPRする

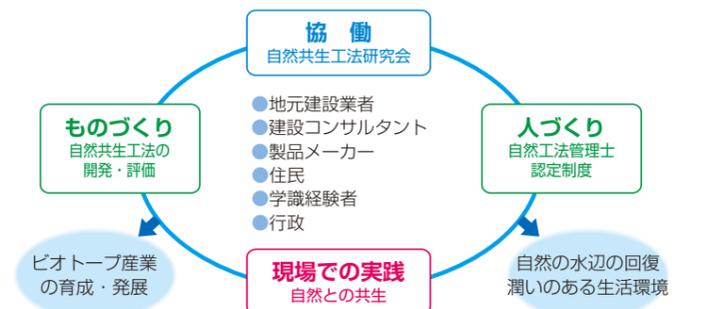


清流ミナモ

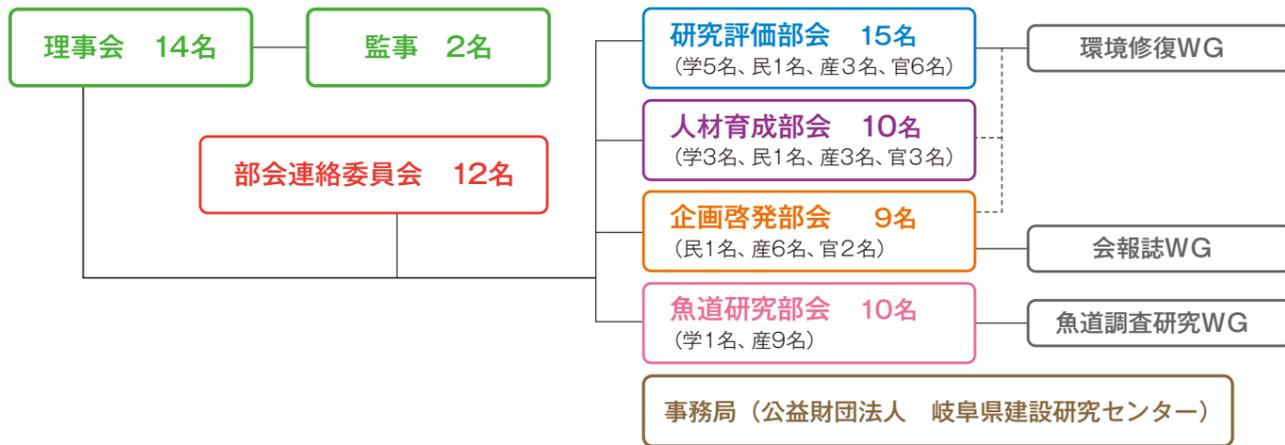
## 「自然の水辺復活プロジェクト」と「自然共生工法」

自然の水辺復活プロジェクトとは、生物にとって重要な水辺を核に、「産学民官の協働」による「現場での実践」を通じて、「ものづくり」と「人づくり」を進め、岐阜県下における自然環境の保全や復元を図り、潤いのある生活環境を創出する取組で、「自然共生工法」はこれらを実現するためのものづくりの手法です。

本研究会では、自然共生工法の具体的実践の研究と評価に取り組んでおり、人づくり施策の県認定自然工法管理士の自己研鑽も支援していて、培われてきた手法や方法論が広く県の施策に活かされていくように努力しています。



## 組織図 研究会を支える委員会と4つの組織



### 研究評価部会

自然共生および工法についての調査、研究、助言を行います。

基盤整備についての指導、助言を行います。

自然共生工法認定制度のあり方や研究の進め方について指導・助言を行います。

調査研究助成の審査を行います。

### 人材育成部会

会員や自然共生に携わる人材の育成を行います。

勉強会などの育成イベントの企画・開催を行います。

創意工夫等表彰の選考を行います。

### 企画啓発部会

自然共生思想普及のための啓発事業の企画・開催を行います。

会員相互の情報交換・外部への情報発信を行います。会報誌の発行を行います。

協賛・助成等の企画・審査を行います。

### 魚道研究部会

研究会の目的を達成するために行うべき活動のうち、魚道に関することの研究を行います。

魚道の機能回復・機能向上の実践的取組を進めています。

### 部会連絡委員会

部会間の事業の調整を行います。

## 研究会会員の状況

■会員内訳(2024.5.31現在)

	法人会員	個人会員	計
産業界	161	1,200	1,361
学界	0	11	11
民間	1	10	11
官界	6	81	87
学生	—	2	2
合計	168	1,304	1,472

■会員数の推移

	法人会員	個人会員	合計
H13 (2001)	161	331	492
H14 (2002)	325	652	977
H15 (2003)	351	797	1,148
H16 (2004)	358	1,115	1,473
H17 (2005)	337	1,294	1,631
H18 (2006)	320	1,376	1,696
H19 (2007)	300	1,437	1,737
H20 (2008)	270	1,447	1,717
H21 (2009)	263	1,483	1,746
H22 (2010)	248	1,442	1,690
H23 (2011)	233	1,424	1,657
H24 (2012)	223	1,418	1,641
H25 (2013)	217	1,386	1,603
H26 (2014)	207	1,383	1,590
H27 (2015)	200	1,368	1,568
H28 (2016)	196	1,350	1,546
H29 (2017)	193	1,338	1,531
H30 (2018)	183	1,328	1,511
R元 (2019)	179	1,320	1,499
R 2 (2020)	177	1,309	1,486
R 3 (2021)	175	1,300	1,475
R 4 (2022)	172	1,317	1,489
R 5 (2023)	168	1,304	1,472

## 研究会ではこんな支援をしています

### ◆活動助成・創意工夫支援・自主研究支援

自然共生に関する「活動」「工夫」「研究」を支援するため、3つの制度を創設し、自然共生に取り組む方を応援します。

#### ① 共催事業助成制度

研究会に属する方の団体が開催する各種事業に10万円を上限に支援を行なっています。

#### ② 創意工夫等表彰制度

研究会員が自然共生に関する創意工夫及び地域貢献を実施し、その成果が認められた方に賞状と副賞3万円を上限に授与しています。

#### ③ 調査研究助成事業

県内で調査研究を実施しようとする研究会員に対し、調査研究費の一部を5万円を上限に助成を行なっています。

### 会員であれば、どなたでも申請することができます。

※詳しくは、研究会ホームページをご覧ください。申請様式をダウンロードしていただくことができます。

### ◆岐阜県自然工法管理士を応援します。

岐阜県では、自然共生や環境保護活動に携わる県民の意識や知識の向上を図り、自然環境を保全するための人材の育成を目的に「岐阜県自然工法管理士」認定制度を実施しています。研究会は、自己研鑽のための勉強会や情報発信を行うことで、管理士の継続教育などを応援します。詳しくは、岐阜県の管理士認定事業ホームページをご覧ください。

## 研究会員募集中

本会の趣旨に賛同いただける方でしたら、どなたでも入会していただけます。

- 特典1 研究会主催の講演会、勉強会等に参加できます。
- 特典2 自然共生に関する最新情報をお届けします。
- 特典3 自然共生の活動を行なう仲間と情報交換の場が増えます。
- 特典4 自然共生に関する活動や研究を支援します。
- 特典5 岐阜県が認定する自然工法管理士の更新に役立ちます。

#### 自然工法管理士の更新について

岐阜県自然工法管理士は自己研鑽として5年間に10単位を取得する必要があります。5年の間に本研究会に3年以上入会されるとおのずと自己研鑽が進むことから、「5単位」が免除される特典があります。(法人をのぞく)

会費(6月から翌年5月まで)：個人会員 年間 3,000円(学生 1,200円)  
法人会員 年間 10,000円

#### 申し込み・問い合わせ先

## 岐阜県自然共生工法研究会

〒503-0807 岐阜県大垣市今宿6-52-18 ワークショップ24 4階  
ソフトピアジャパンエリア内 公益財団法人 岐阜県建設研究センター内  
電話・FAX 0584-81-1340 E-mail gifu-shizen@deluxe.ocn.ne.jp  
URL <https://shizenkyousei.jp/>



## 研究会ではこんなことをやっています

### 通常総会・特別講演

**開催日** 令和6年6月21日(金)  
**場所** 不二羽島文化センター  
 スカイホール(羽島市)

#### 特別講演

**演題**：川のアクティブラーニング  
 -楽しく気づき川と地域を自分事にする  
 水環境学習の体系化-

**講師**：NPO法人 e-plus 生涯学習研究所  
 代表理事 小林 由紀子 氏



通常総会



特別講演

### 女性優先現地見学会&植物生育環境・魚類生息環境勉強会

**開催日** 令和5年11月10日(金)  
**場所** 阿木川ダム湖周辺  
 及び 阿木川ダム防災資料館 (恵那市東野字花無山)

#### 女性優先現地見学会&植物生育環境・魚類生息環境勉強会(合同開催の部)

**参加人数** 21名

**内容**：阿木川ダムは、洪水調節、河川環境の保全等及び新規利水(水道用水、工業用水)の供給を目的とした多目的ダムです。当ダム(主ダム)上流端にある、ダム湖の水質保全を目的とした阿木川及び岩村川貯留ダムには魚道が設置されていて、湖内越冬したアユが遡上しており、河川環境保全の機能にはそれらも一体となって効果を発揮しています。

今回の女性優先現地見学会と植物生育環境・魚類生息環境勉強会は、座学及びダム湖周辺の植生や阿木川貯留ダムの魚道の現地見学を合同で行い、魚類生息環境をはじめとする環境保全及び水質保全に関する取組やダム周辺の植物生育環境について学習しました。

#### 女性優先現地見学会(単独開催の部)

**参加人数** 10名

**内容**：現地見学の後、意見交換の場を持ち、自然との共生、環境の保全についての理解を深めるとともに参加者同士の交流を深めました。

#### 参加者の方々からは

- ・現地見学では、アギナシの植生は近年減少傾向にあるが、農家としてはやっかい者扱いされているため、生物多様性と植生管理の両立は難しいと感じた。
- ・意見交換会では、様々な分野、会社、立場の方の意見が聞けて、有益であった。同性、同世代、同じ仕事をしている人と交流することができて良かった。

等のご意見・ご感想をいただきました。

#### 植物生育環境・魚類生息環境勉強会(単独開催の部)

**参加人数** 11名

**内容**：支川の岩村川貯留ダムにも設置されている魚道を訪れて、阿木川ダム貯留ダムの魚道との共通点や相違点を確認した後、阿木川ダム堤体内の監査廊で堤体挙動を計測・監視する装置を見学し、ついでダム操作についての説明を受けたことで、環境保全等に関する取組に加え、ダムの役割などについても学習できました。



阿木川貯留ダム



座学



現地見学(植生)



意見交換会



現地見学(阿木川ダム)

### ボランティア長良川清掃活動

**開催日** 令和5年7月22日(土) 7:00~8:00  
**場所** 長良橋上流を中心とした  
 河川敷周辺(長良川左岸側)

**参加人数** 133名

美しい川の風景があることを訪れた人々が感じ、楽しい記憶の一つとして残してもらえるように長良川の河川敷清掃を実施しました。



### 「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

**募集期間** 令和5年7月18日(火)~8月25日(金)  
**応募数** 16作品

岐阜県自然共生工法研究会では、県内各地で進められている自然共生への様々な取組について、良い取組がなされている事例や、施工後の自然環境の回復・復元が良好な事例について写真を募集し、コンテストを開催しています。

令和5年度は16作品の応募がありました。受賞者の方々には、「清流の国ぎふ」づくり『自然共生』事例発表会において、表彰状を贈呈しました。ご協力ありがとうございました。右の写真は優秀賞、佳作の4作品です。

最優秀賞の2作品は表紙を飾っています。

優秀賞



佳作



### 魚道に関する調査・研究

**開催日** 令和5年11月1日(水)・2日(木) **場所** 神通川水系荒城川 松ヶ坪頭首工魚道(高山市)  
**参加人数** 27名

魚道研究部会は、水生生物がすみやすい河川環境を再生・創出する一助として移動の連続性を確保するために、学識者や岐阜県と協働して魚道に関する調査・研究に取り組んでいます。

令和5年11月には、荒城川にある松ヶ坪頭首工魚道において、簡易モニタリング調査の現地研修を実施しました。定置網の設置やタモによる捕獲調査、魚道カルテを用いた点検を行い、モニタリング調査の手法を習得しました。



#### 会報誌「自然との共生」の発行

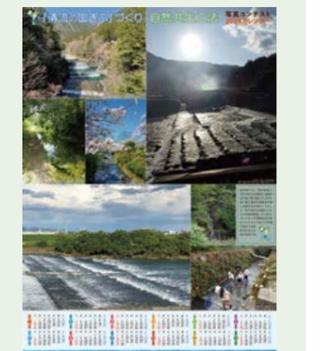


vol.46

vol.47

#### カレンダーの発行

自然共生工法に関する取り組みについて、より多くの方に知っていただくため、「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテストの入賞作品を用いたカレンダーを作成しています。



## 各団体との共催事業

### ◆第11回「清流の国ぎふ」づくり「自然共生」事例発表会（岐阜県）

**開催日** 令和5年11月15日（水）

**場所** ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール（岐阜市） **参加者** 174名

自然共生に関する県内外の取り組み事例を「ハード部門」（4事例）と「ソフト部門」（6事例）に分けて発表を行う事例発表会と講演会を開催しました。

#### 事例発表会（表彰）

##### ソフトの部

○最優秀賞『ビオトープ「飛騨の森林再生」プロジェクト

～環境科学科2年生が挑む SDGs 達成に向けた取り組み～

発表者：岐阜県立飛騨高山高等学校 環境科学科自然環境班

○優秀賞『効果的・効率的な河川事業の実現に向けた「バーチャルな空間」の活用

発表者：（国研）土木研究所 自然共生研究センター 林田 寿文 氏

##### ハードの部

○最優秀賞『木曾川における河道の二極化対策の試行』

発表者：国土交通省 中部地方整備局

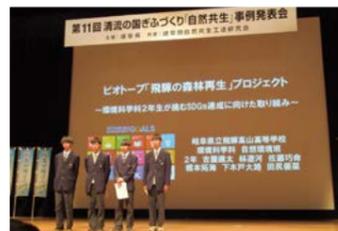
木曾川上流河川事務所 田原 晃誠 氏

○優秀賞『水田魚道と江の併設による魚類の保全効果』

発表者：岐阜県立岐阜農林高等学校 環境科学科

**特別講演** 演題：『河川ダイナミクスの生態学：動く川が育む生物多様性』

講師：岐阜協立大学 地域創生研究所 森 誠一 教授



ソフトの部（最優秀賞）



ハードの部（最優秀賞）



特別講演

### ◆岐阜県自然共生川づくり勉強会（岐阜県）

自然と共生した川づくりを推進するため、平成22年度から河川を題材とした「自然共生川づくり勉強会」を実施しており、“緑豊かな「清流の国ぎふ」づくり”における施策の1つである“豊かな森づくり・清らかな川づくり”を推進してきました。川づくりを推進するため、平成22年度から河川を題材とした「自然共生川づくり勉強会」を実施しています。

**第1回** **開催日** 令和6年1月18日（木） **場所** 木曾川水系長良川（岐阜市加野地内） **参加者** 30名

長良川で行ったベストリバー事業の設計や施工の考え方を学び、実際の河川を歩きながら、施工後の効果等を確認し、参加者間で意見交換を行い知識を深めました。



**第2回** **開催日** 令和6年3月15日（金） **場所** 木曾川水系糸貫川（本巣郡北方町高屋） **参加者** 15名

新技術である「バーチャルツアー」と「LiDAR による3D スキャン」の基本的な操作や活用方法等の概要について学びました。糸貫川周辺で360度カメラを用いて撮影した写真と3D スキャンデータを用い、バーチャルツアー用の画像を作成して、作成や操作等の方法の実際を学習しました。



## 研究会の構成

### 理事会

会長

藤田裕一郎（学）

（大）東海国立大学機構 岐阜大学 名誉教授

西條 好迪（学）

（一財）自然学総合研究所 顧問・理事

森 誠一（学）

（学）大垣総合学園  
岐阜協立大学 地域創生研究所 教授

和田 清（学）

（独）国立高専機構  
松江工業高等専門学校 校長

木呂子豊彦（学）

（公財）日本生態系協会 顧問

川合千代子（民）

水環境もやい研究所

清水 佳子（民）

天神川を考える会

寺町 茂（民）

環境省希少動植物種保存推進員  
農林水産省環境相談員

栗山 貴稔（産）

（一社）岐阜県建設業協会 理事

安江 修平（産）

（一社）岐阜県特殊工事技術協会 代表理事

市橋 政浩（産）

（一社）岐阜県測量設計業協会 副会長

工藤 喜史（官）

岐阜県 環境生活部 次長

飯島 竜二（官）

岐阜県 県土整備部 土木技監

船坂 徳彦（官）

（公財）岐阜県建設研究センター 理事長

### 監事

カ石 克己（産）

（一社）岐阜県測量設計業協会 専務理事

平野 昌彦（官）

岐阜県 県土整備部 次長

### 部会連絡委員会

各部会長及び部会員1～2名

### 研究評価部会

部会長	藤田裕一郎（学）	（大）東海国立大学機構 岐阜大学 名誉教授
副部会長	和田 清（学）	（独）国立高専機構 松江工業高等専門学校 校長
アドバイザー	森 照貴（官）	（国研）土木研究所 上席研究員 兼自然共生研究センター センター長
部会員	西條 好迪（学）	（一財）自然学総合研究所 顧問・理事
	森 誠一（学）	（学）大垣総合学園 岐阜協立大学 地域創生研究所 教授
	原田 守啓（学）	（大）東海国立大学機構 岐阜大学 環境社会共生体研究センター 准教授
	寺町 茂（民）	環境省希少動植物種保存推進員 農林水産省環境相談員
	林田 寿文（官）	（国研）土木研究所 水環境研究グループ 自然共生研究センター 主任研究員
	齋藤 大作（官）	国土交通省 中部地方整備局 木曾川上流河川事務所 所長
	櫻野 誠（官）	国土交通省 中部地方整備局 越美山系砂防事務所 所長
	岡田 猛（産）	（一社）岐阜県建設コンサルタンツ協会
	安江 修平（産）	（一社）岐阜県特殊工事技術協会 代表理事
	西田 昌和（産）	岐阜県コンクリート製品協同組合 理事長
	戸田 健吾（官）	岐阜県 県土整備部 建設政策課 課長
	真鍋 将一（官）	岐阜県 県土整備部 河川課 課長

### 人材育成部会

部会長	木呂子豊彦（学）	（公財）日本生態系協会 顧問
副部会長	加藤 剛（産）	（一社）岐阜県建設コンサルタンツ協会
アドバイザー	西條 好迪（学）	（一財）自然学総合研究所 顧問・理事
	清水 佳子（民）	天神川を考える会
	真鍋 昌伸（産）	（一社）岐阜県特殊工事技術協会 自然共生技術委員会 委員長
	野々村武文（官）	国土交通省 中部地方整備局 中部技術事務所 所長
	辻 克紀（官）	岐阜県 県土整備部 技術検査課 課長
	山口 義樹（官）	（公財）岐阜県建設研究センター 副理事長
	小林 智尚（学）	（大）東海国立大学機構 岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 教授
	賀川 真樹（産）	いであ株式会社 名古屋支店 環境技術・生態部

### 企画啓発部会

部会長	栗山 貴稔（産）	（一社）岐阜県建設業協会 理事
副部会長	早川 和夫（産）	（一社）岐阜県測量設計業協会 建コン技術委員長
	川合千代子（民）	水環境もやい研究所
	松野 守男（産）	（一社）岐阜県特殊工事技術協会
	大久保清之（産）	（一社）岐阜県造園緑化協会 事務局長
	栗野 靖浩（産）	（一社）全国特定法面保護協会 岐阜県事務所 所長
	今村 穂積（産）	岐阜県土木用ブロック協会 副会長
	飯島 竜二（官）	岐阜県 県土整備部 土木技監
	吉川 尚文（官）	岐阜県 環境生活部 環境生活政策課 課長

### 魚道研究部会

部会長	森 誠一（学）	（学）大垣総合学園 岐阜協立大学 地域創生研究所 教授
副部会長	山口 政徳（産）	大日コンサルタント（株）
	増田 治雄（産）	揖斐川工業（株） アイケイコンクリート部
	奥田 好章（産）	（株）ユニオン
	永縄 芳之（産）	（株）テイコク
	林 哲郎（産）	（株）三進
	馬淵 剛（産）	（株）山辰組
	平田 亨（産）	（株）興栄コンサルタント
	渡部 健（産）	丸栄コンクリート工業（株）
	鷲見 拓哉（産）	大同コンサルタンツ（株）

### 事務局

（公益財団法人 岐阜県建設研究センター内）

（令和6年6月21日現在）